

2022 年卒
Vol. 04

2月1日時点の就職意識調査

キャリアス就活 2022 学生モニター調査結果 (2021 年 2 月発行)

いよいよ来月に採用広報解禁を控え、緊張感が増す就職戦線。2022 年卒者学生の最新動向を知るべく、キャリアス就活・学生モニターを対象に、2月1日時点での準備状況などを尋ねた。広報解禁前にもかかわらず内定率が1割を超えるなど、早期化の傾向が表れている。

1. 2月までの就職活動準備状況

- 「自己分析」88.9%、「就活準備イベントに参加」81.4%、「業界研究」79.9%の順
- 「筆記・面接等の就職試験対策」が前年を大きく上回るなど、早めの準備が目立つ

2. インターンシップ等(※)の参加状況と2月の参加予定

- 参加経験者は9割超(92.8%)で、前年(92.7%)並みの高水準
- 平均参加社数9.4社のうち、就職したいと思った企業は3.0社

3. 2月1日時点の本選考受験状況と内定状況(※)

- 「本選考を受けた」60.3%。前年より12.5ポイント増加。受験社数は平均3.5社
- 「内定を得た」13.5%。前年同期(10.0%)を3.5ポイント上回る。より早いペースで進行

4. エントリーを決めている企業

- 「エントリーを決めている企業がある」81.1%。1カ月で11.2ポイント増。平均8.5社
- 3月以降、新たな企業を求めて約6割が合同企業説明会に参加予定

5. 志望企業の選考スケジュールの認知状況

- 6割強(64.1%)が本命企業のスケジュールを認知。内定取得予想時期は「6月前半」が最多
- 「感染拡大が落ち着くまで採用活動を延期してほしい」16.6%。8割強が「進めてほしい」

6. 企業を判断するために知りたいこと

- 就職先候補の判断材料は「仕事内容」を筆頭に、「福利厚生」「社風」など多岐にわたる

7. コロナの影響による留学予定の変更状況

- 「留学を中止した」9.7%、「切り上げた」5.1%など、影響を受けた者は16.2%

8. コロナ禍によるキャリア観への影響

- コロナの流行でキャリア観に「影響を受けた」6割。業界・企業の選択軸、働き方などに影響

9. Uターン就職の希望状況

- Uターン就職希望者は28.0%で前年並み。希望理由は「地元で貢献したい」が大きく上昇

※「インターンシップ(就業体験を伴う複数日程のプログラム)」に限定せず、1日以内のプログラムも含めて調査
※「内定」には、内々定を含む

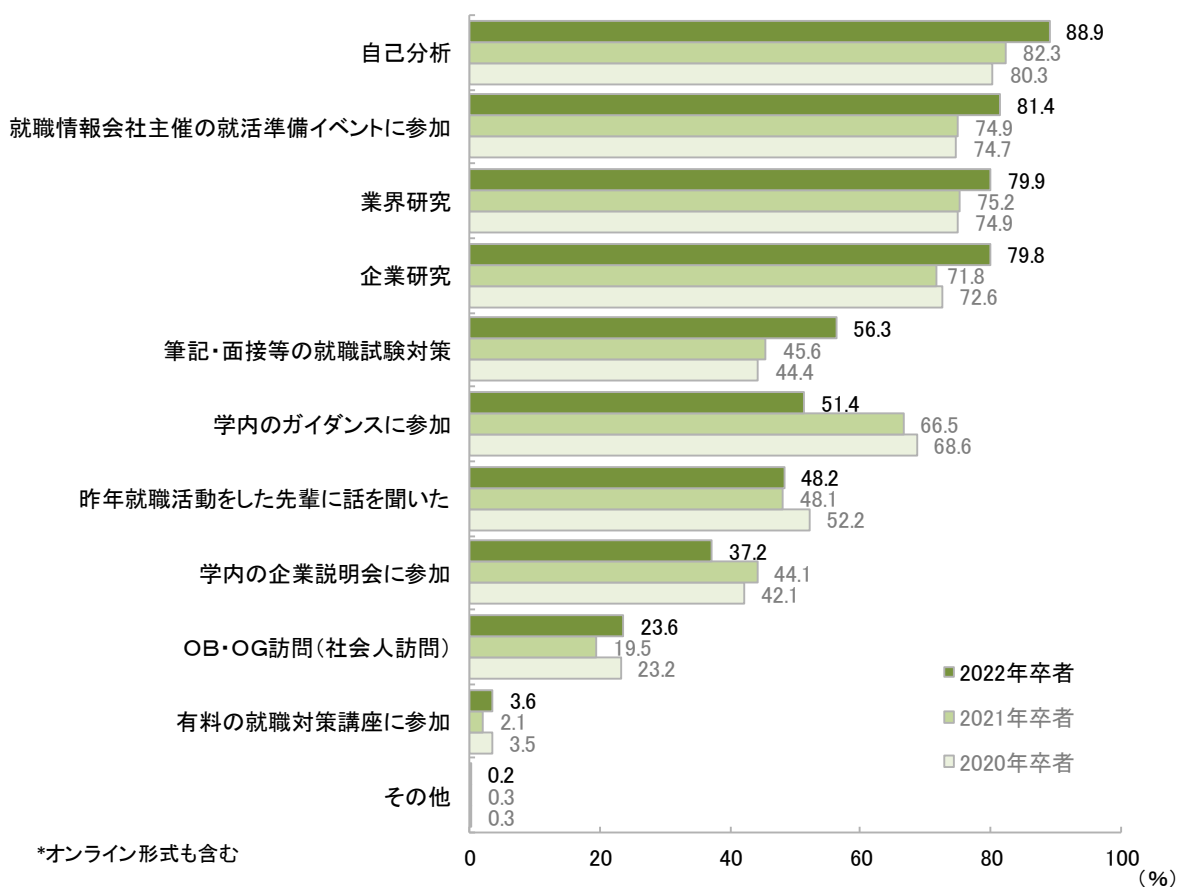
調査概要

- 調査対象 : 2022年3月に卒業予定の大学3年生(理系は大学院修士課程1年生含む)
回答者数 : 1,252人(文系男子386人、文系女子371人、理系男子357人、理系女子138人)
調査方法 : インターネット調査法
調査期間 : 2021年2月1日~6日
サンプリング : キャリタス就活2022学生モニター(2016年卒以前は「日経就職ナビ・就職活動モニター」)

1. 2月までの就職活動準備状況

就職活動の準備としてこれまでにやったことを尋ねたところ、最も多いのは「自己分析」で9割近くが選んだ(88.9%)。次いで「就職情報会社主催の就活準備イベントに参加」(81.4%)、「業界研究」(79.9%)、「企業研究」(79.8%)が8割前後で続く。上位の5項目は、前年・前々年比べてポイントが上昇しており、早めに準備を始める学生が増えている様子が表れている。特に「企業研究」は8.0ポイント増、「筆記・面接等の就職試験対策」は10.7ポイント増と大幅に上昇しており、選考対策に取り組む学生の増加が目立つ。

<就職活動準備で2月までにやったこと>



■就職活動準備について

- 漠然と不安になるので、しっかり自己分析をしておきたいです。インターンシップなどに参加して、不安な要素をなくしていきたいです。 <文系女子>
- もうそろそろ本格的にエントリーをする企業を選んでいかなくてはいけないと思っている。 <文系男子>
- 情報を自分から探しに行かないと、全然入ってこないの、積極的に行動したものの勝ちだと思った。 <文系男子>
- 周りがどのくらい適性検査の勉強をしているか、ES 通過率はどのくらいかなどを気にして不安になることが多々あります。 <理系男子>
- オンラインに慣れている今、選考が進むにつれて対面になると、慣れていなくて怖いです。 <文系女子>
- 企業によって進み方や時期にばらつきがあり不安だが、とにかく周りに流されずに頑張りたいと考えている。 <理系男子>
- 今年の就活はとても厳しいものになるだろうと予測している。例年よりも企業の動きも早いので、行動も早くしていかなければならないと思った。 <理系女子>

2. インターンシップ等(※)の参加状況と2月の参加予定

2月1日現在、オンライン形式を含め、インターンシップ等のプログラム(以下、インターンシップ)への参加経験を持つ学生は9割を超える(92.8%)。高水準だった前年調査(92.7%)と同程度の参加実績となった。プログラム日数ごとに参加状況を見ると、「1日以内」の参加者が最も多く、9割に上る(90.6%)。「2~4日間」も6割近くが参加している(58.1%)。「1日以内」「2~4日間」の短期プログラムは、それぞれ参加社数も増加。オンライン化が進んだことで選択肢が広がり、参加しやすくなったのだろう。

また、プログラム日数を問わず、参加した結果、就職したいと思う企業があったかどうか尋ねたところ、8割強(86.1%)の学生が「あった」と回答。インターンシップ平均参加社数9.4社に対し、就職したいと思う企業は3.0社で、参加企業の約3割に相当する。インターンシップ参加社数の増加に伴い、就職したいと思う企業数も増加した。数多くのインターンシップに参加し、自分に合う企業を選ぼうとしている様子が感じられる。

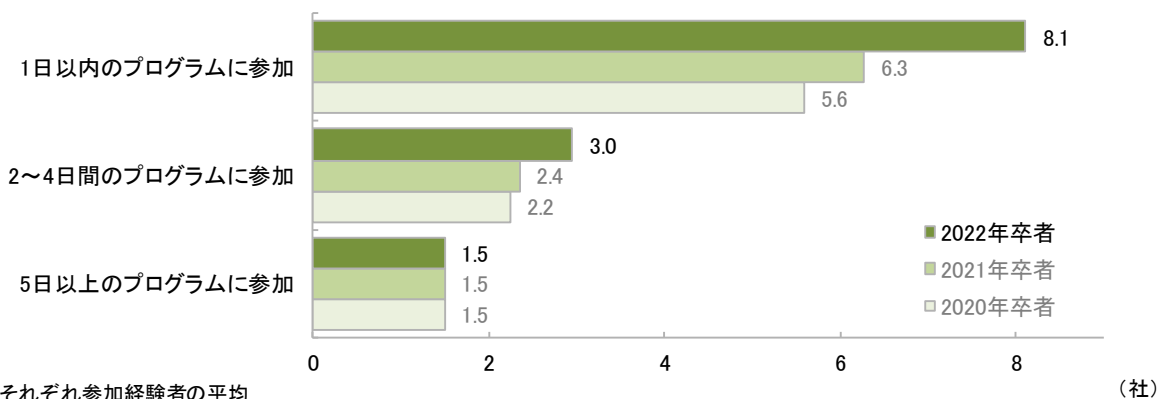
※1日以内のプログラムも含む

<プログラム日数別参加状況>

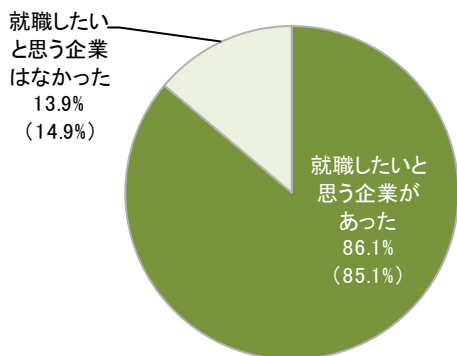
	全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子	(2021年卒者)	(2020年卒者)
1日以内のプログラムに参加	90.6	90.4	93.0	87.1	93.5	88.5	87.6
2~4日間のプログラムに参加	58.1	59.6	59.3	56.0	55.8	51.2	52.3
5日以上のプログラムに参加	24.1	18.4	23.2	30.5	26.1	34.9	37.2

*オンライン形式も含む(以下同)

<プログラム日数別参加社数>

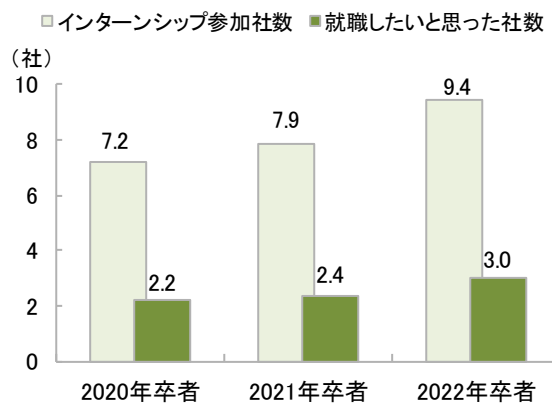


<インターンシップ参加企業への就職意向>



※()内は2020年2月調査の数値(以下同)

<就職したいと思った社数>

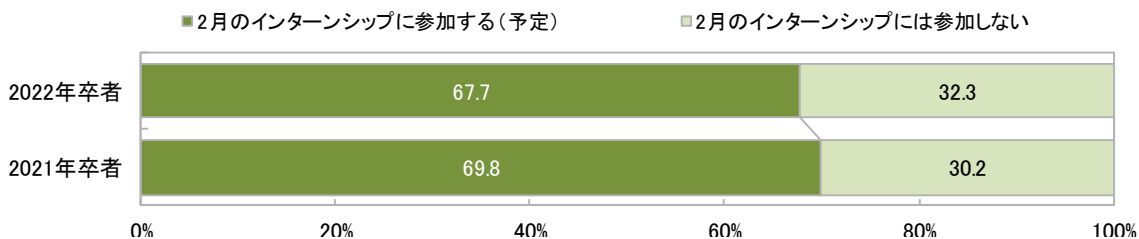


※「参加社数」は日数にかかわらず参加経験者を分母に計算

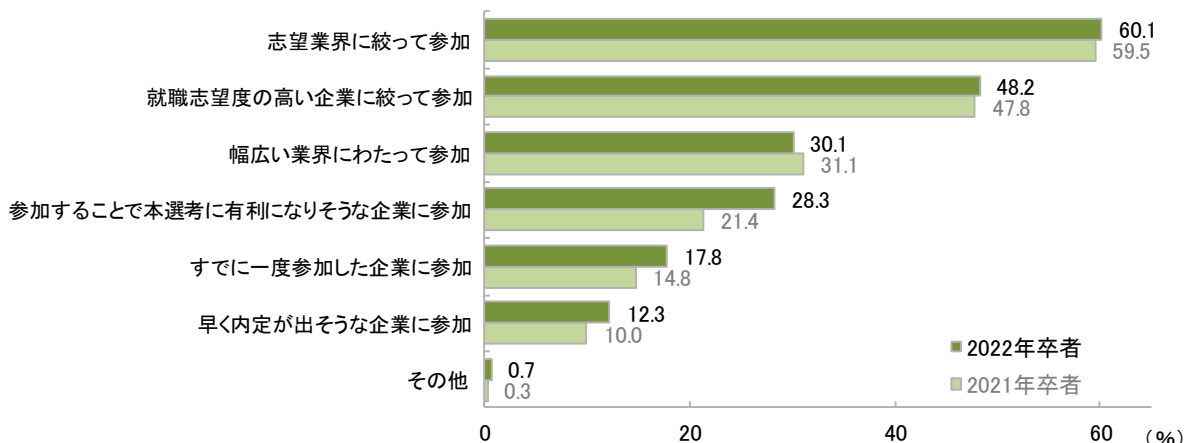
今後の参加予定を尋ねたところ、全体の約 7 割 (67.7%) が「2 月のインターンシップに参加する」と回答した。参加企業の選び方としては、「志望業界に絞って参加」(60.1%) が最も多く、次いで「就職志望度の高い企業に絞って参加」(48.2%) が続く。3 月の解禁を前に、就職先として関心の高い業界や企業への理解を深めるために参加したいと考える学生が多いようだ。また、「参加することで本選考に有利になりそうな企業に参加」のポイントが伸びているのが目立つ (21.4%→28.3%)。

一方、2 月のインターンシップには参加しないと回答した学生 (全体の 32.3%) に、その理由を尋ねた。最も多いのは、「インターンシップよりもほかの就活対策に時間を割きたい」(37.6%) で、前年調査から微増。他にも「すでに十分参加しており、これ以上参加する必要を感じない」も前年から数値を伸ばしており (19.1%→22.8%)、本選考に備え、エントリーシートの準備や筆記試験、面接対策などに注力したいと考える学生も少なくないことがわかる。

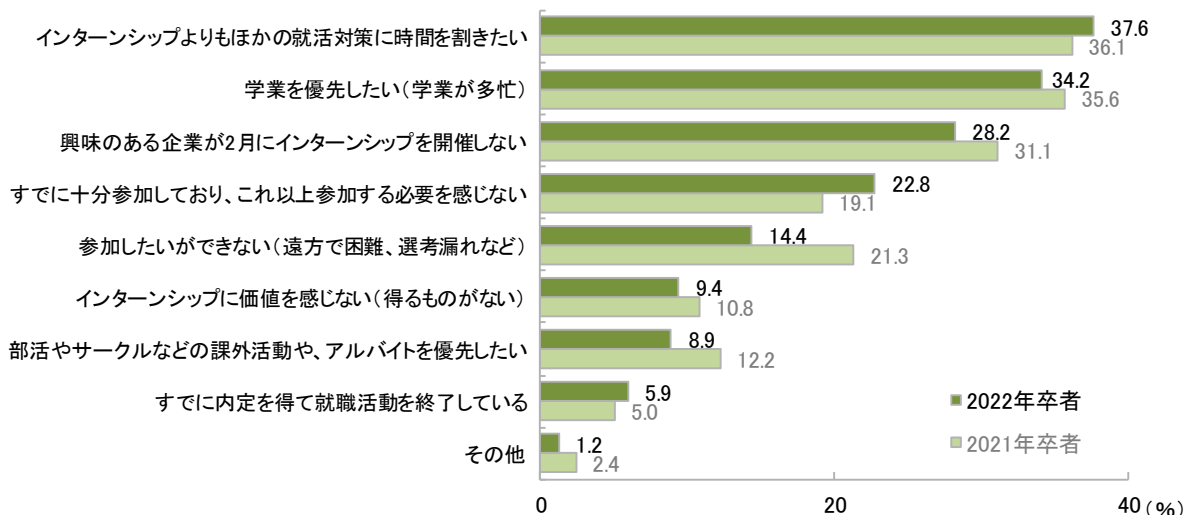
＜2月に開催されるインターンシップへの参加意向＞



＜2月のインターンシップ先の選び方＞



＜2月のインターンシップに参加しない理由＞

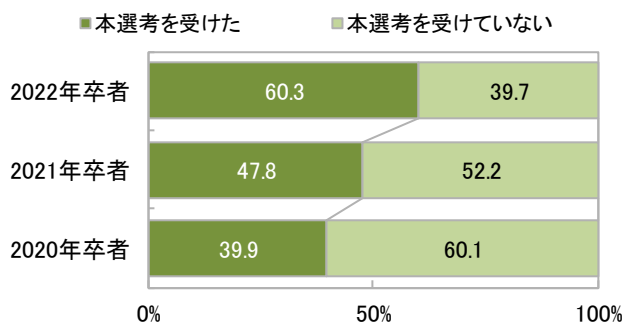


3. 2月1日時点の本選考受験状況と内定状況

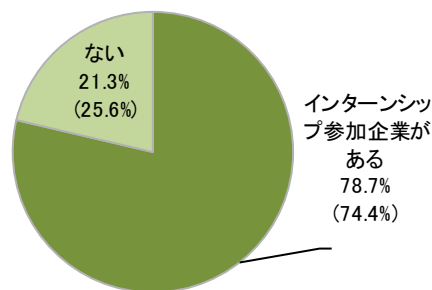
2月1日時点の本選考（採用選考）の受験状況を尋ねた。筆記試験や面接など「本選考を受けた」という学生は早くも6割に達し（60.3%）、前年同期調査（47.8%）を10ポイント以上、上回った。受験者を分母とした受験社数の平均は3.5社で、前年（2.6社）よりも0.9社多い。また、本選考受験者の8割近く（78.7%）が、その中に「インターンシップ参加企業がある」と回答。前年（74.4%）よりも高く、インターンシップから早期の選考につながるケースが増えたことがわかる。

内定状況については、「内定を得た」との回答が13.5%。前年調査（10.0%）を3.5ポイント上回り、活動解禁1カ月前にもかかわらず内定率は1割超に達した。先月調査時に引き続き、前年よりも早いペースで進行している。

＜2月1日現在の本選考の受験有無＞

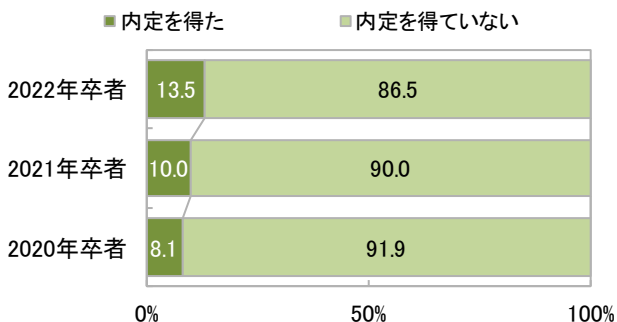


＜うち、インターンシップ参加企業の有無＞

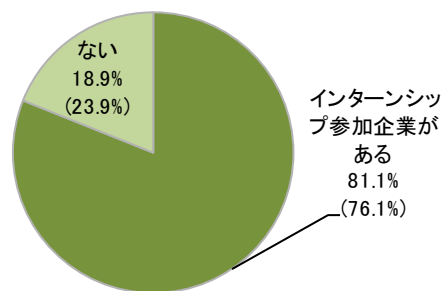


	全体	(前年全体)	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
本選考を受けた	60.3%	47.8%	61.4%	61.7%	58.0%	59.4%
本選考を受けていない	39.7%	52.2%	38.6%	38.3%	42.0%	40.6%
選考企業社数(平均)	3.5社	2.6社	3.9社	3.5社	3.4社	2.9社
うち、インターンシップ参加社数(平均)	1.8社	1.3社	2.0社	1.9社	1.5社	1.6社

＜2月1日現在の内定の有無＞



＜うち、インターンシップ参加企業の有無＞



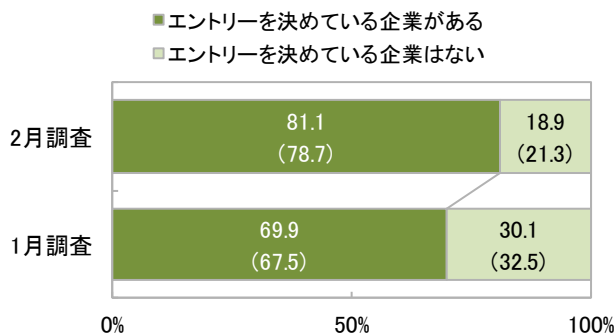
*「内定」には、内々定を含む

	全体	(前年全体)	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
内定を得た	13.5%	10.0%	14.0%	13.2%	13.2%	13.8%
内定を得ていない	86.5%	90.0%	86.0%	86.8%	86.8%	86.2%
内定社数(平均)	1.3社	1.3社	1.3社	1.4社	1.3社	1.2社
うち、インターンシップ参加社数(平均)	1.0社	0.9社	1.1社	1.0社	0.9社	1.0社

4. エントリーを決めている企業

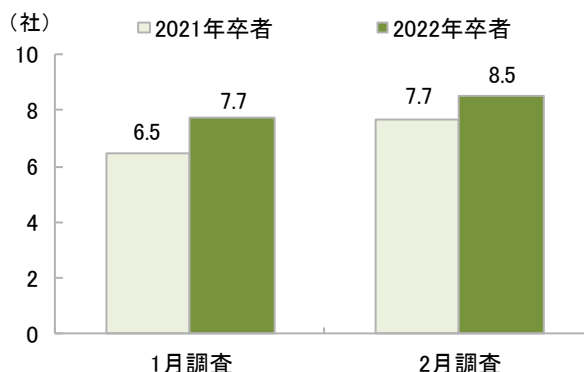
就職活動解禁 (3 月 1 日) を 1 カ月後に控え、「エントリーをしようと思っている企業がある」という学生は全体の 8 割を超えている (81.1%)。1 月調査 (69.9%) からの 1 カ月で 11.2 ポイント増えた。2 ページで見たように、就職活動準備として企業研究を実施した学生は約 8 割に上り (79.8%)、研究した結果、就職先として志望する企業のリストアップが進んでいると見られる。具体的にエントリーを決めている企業の本数は平均 8.5 社。

<エントリーを決めている企業>



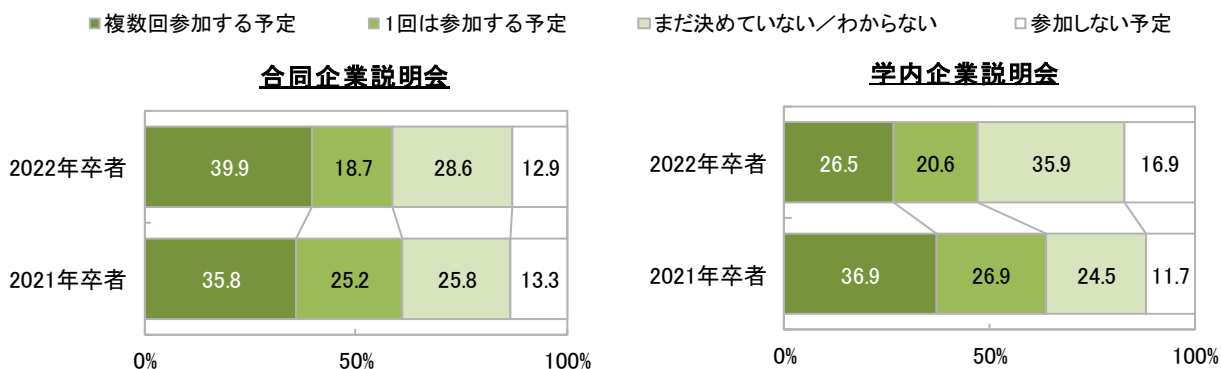
※()内は2020年2月調査の数値

<エントリーを決めている企業の社数>



3 月の採用広報解禁後に開催される合同企業説明会について参加 (視聴) 意向を尋ねたところ、全体の約 4 割 (39.9%) が「複数回参加する」と回答。前年調査 (35.8%) を上回った。「1 回は参加する」(18.7%) を合わせると、参加予定者は 6 割近くに上る (計 58.6%)。上で見たようにエントリーを決めている企業を持ちながらも、新たな企業との出会いを求めてイベントの活用を考えている学生が少なくないことがわかる。

<3月以降の合同企業説明会への参加予定>



*オンライン形式も含む

■ 3月の解禁に向けて

○自分から情報を掴みに行き、自分に合う企業を見つけ、企業側からも一緒に働きたいと思ってもらうことができればいいと思う。 <文系女子>

○受ける会社が少なすぎて内定がひとつもないという状況は避けたいが、たくさん受けすぎて学業に影響がでってしまうことも避けたい。 <理系男子>

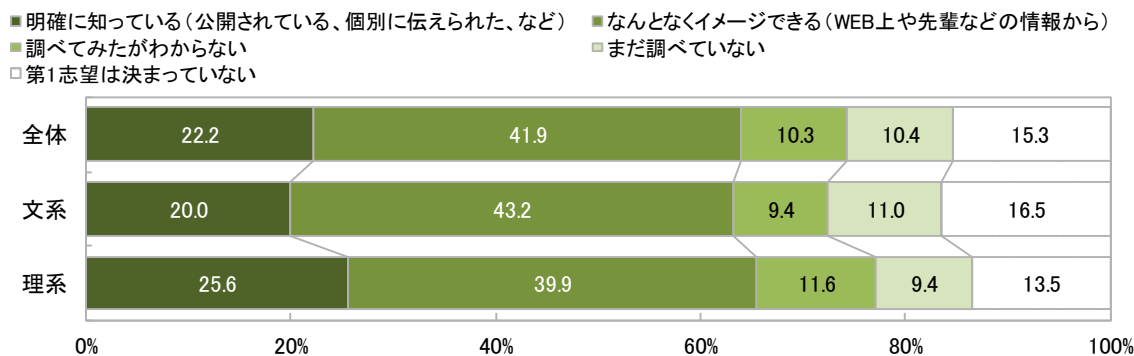
○インターネットで情報を探しても、斜め読みになってしまって頭に入らないこともある。対面で会社訪問して、会社の雰囲気を感じたりしたい。 <理系女子>

5. 志望企業の選考スケジュールの認知状況

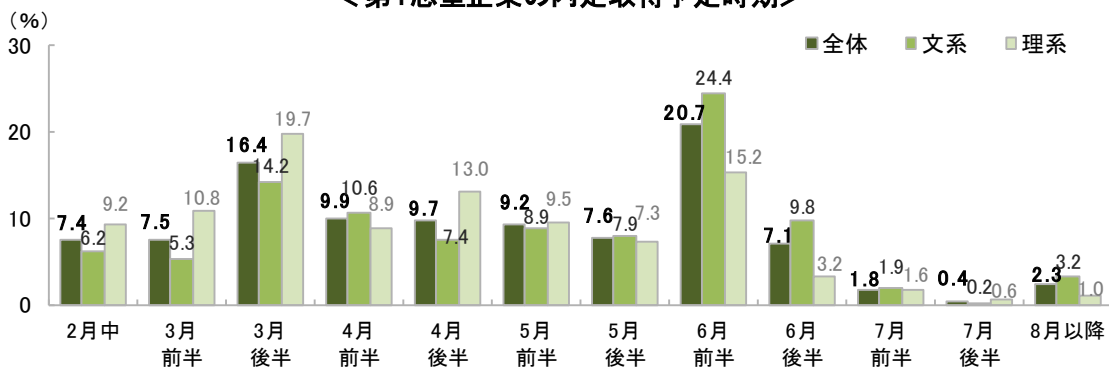
現時点の第1志望企業について、選考スケジュールを知っているかを尋ねたところ、「明確に知っている」という学生は2割強(22.2%)。「なんとなくイメージできる」(41.9%)を合わせると、6割強(計64.1%)が認知していた。その企業から内定が出る場合に、いつ頃をイメージしているかを重ねて尋ねると、選考解禁直後の「6月前半」(20.7%)が最も多かった。現状では進捗の早さが目立っているが、本命企業の内定はやはり6月と認識している学生が少なくないことがわかる。ただ、理系学生については「3月後半」が多く、早期の内定、就活終了を想定している層が比較的多いようだ。

また、コロナ下での活動について企業への要望を聞いてみると、「感染拡大が落ち着くまで採用活動を延期してほしい」は16.6%にとどまり、残りの8割以上が「制約がある中でも採用活動を進めてほしい」と回答した(83.4%)。採用活動を進めてほしい気持ちは理系においてより強い。

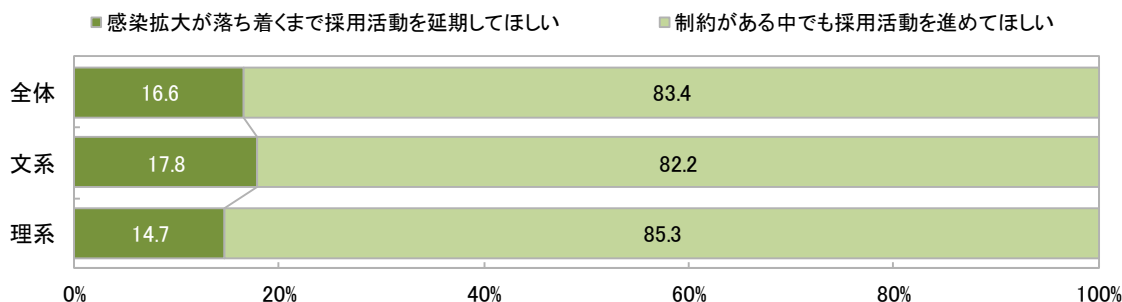
＜第1志望企業の選考スケジュールの認知状況＞



＜第1志望企業の内定取得予定時期＞



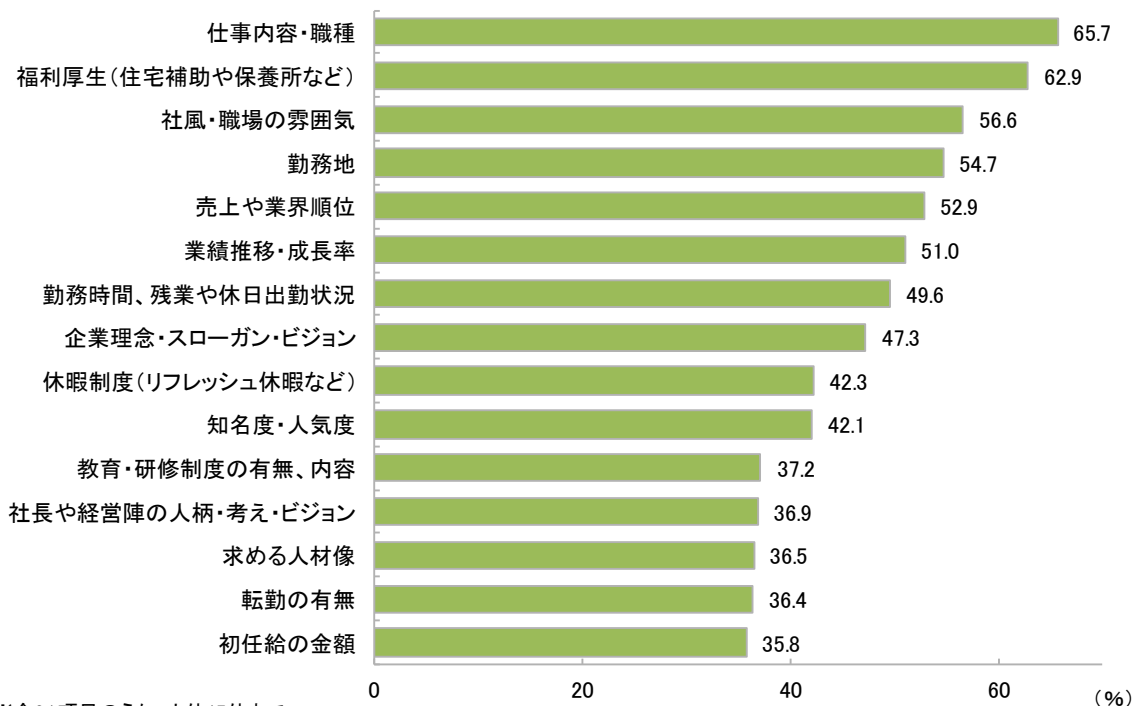
＜コロナ禍での就職活動における企業に対する気持ち＞



6. 企業を判断するために知りたいこと

就職先の候補として興味を持てるかを判断するために知りたい情報を尋ねた。あてはまるものすべてを選んでもらったところ、最も多いのは「仕事内容・職種」で 6 割強 (65.7%) が選んだ。次いで「福利厚生」(62.9%)、「社風・職場の雰囲気」(56.6%)、「勤務地」(54.7%) と続く。上位項目の多くは過半数を超えており、様々な角度から判断したいと考える学生が多いことが読み取れる。採用広報解禁に向け、企業には様々な情報発信が求められそうだ。

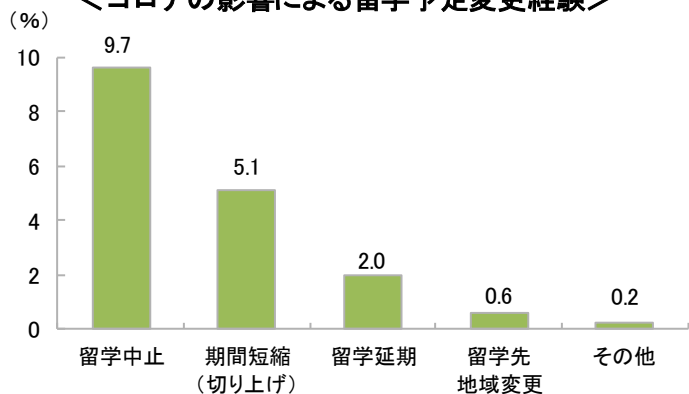
＜就職先の候補として興味を持てるかを判断するために知りたい情報＞



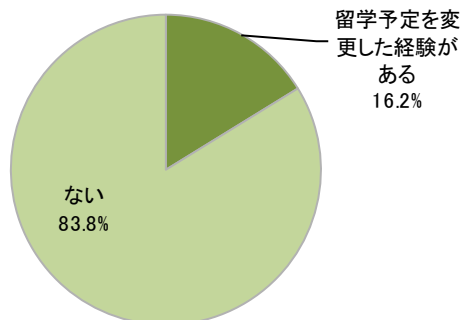
7. コロナの影響による留学予定の変更状況

新型コロナの影響で海外への留学予定を変更した経験について尋ねてみた。「留学を中止した」という回答が 9.7% に上り、少なからぬ学生がコロナ禍で留学を断念していたことがわかった。他に「留学期間を短縮した(切り上げた)」5.1%、「留学を延期した」2.0%などと続き、何らかの変更経験を有する学生は 1 割を超える (16.2%)。

＜コロナの影響による留学予定変更経験＞



＜留学予定変更有無＞

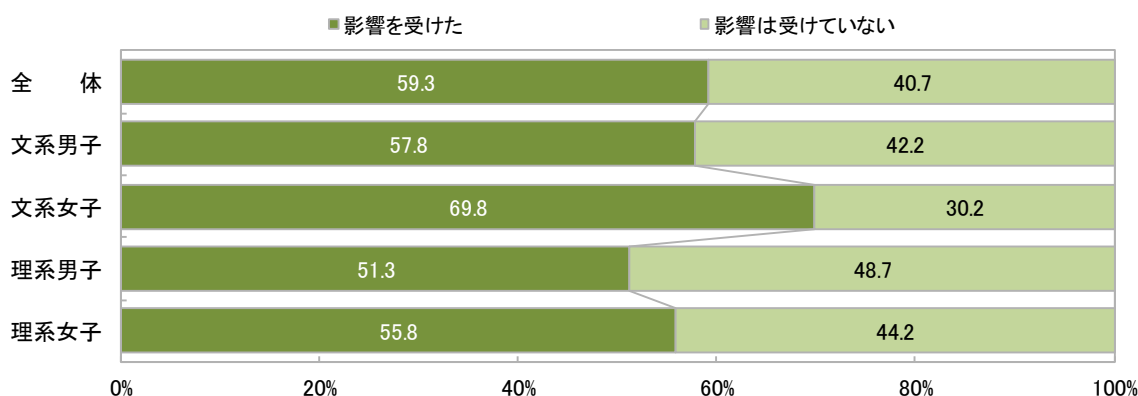


8. コロナ禍によるキャリア観への影響

新型コロナの流行によって、自身のキャリア観や企業選びの基準・価値観に何らかの影響を受けたと思うかどうかを尋ねたところ、「影響を受けた」という回答が約 6 割に上り (59.3%)、「影響は受けていない」(40.7%) を上回った。

具体的な影響としては、企業選びの際に、有事下の企業の対応力や安定性、リモートワークなど柔軟な働き方ができるかどうかなどを重視するようになったという意見のほか、成長産業を意識的に志望するようになったなど、その影響は多岐にわたる。一方、影響を受けていない人からは、コロナ禍を一過性のものと捉え、長期的に働くうえでの軸は変えないといった意見が挙がった。

<新型コロナの流行によるキャリア観への影響>



■具体的な影響の内容

- 非常事態に対応できるだけの能力を持っている企業を選びたいと感じるようになった。 <文系男子>
- 自分のやりたい職業なども重要ではあるが、企業自体の今後の展望や業種・職種の将来性なども重要視するようになった。 <理系男子>
- コロナのような不測の事態が起こった際でも、ある程度、安定した経営ができるか重視するようになった。 <理系男子>
- 志望業界が新型コロナの大打撃を受けているため、従来描いていた将来像が大きく変わった。 <文系男子>
- サービス業など多くの企業が採用を中止していたため、将来性のある業界を選んだ。 <文系女子>
- コロナの影響でも順調に成長している企業はやはり注目するようになり、今まで見ていなかった業界を選択肢の一つとして考えるようになった。 <文系女子>
- コロナ下で自分の市場価値を高めることが必要であると悟り、ベンチャー志向になった。 <文系男子>
- 多少のことでは倒れない安定した大企業がやっぱり安心だなと思った。 <文系女子>
- テレワークができる可能性のある職種を選びたいと思った。 <理系男子>
- すぐオンラインの説明会などに切り替えられる企業の方が、今後事業でも置いていかれないと感じる。 <文系女子>

■影響を受けていない理由

- 志望する業界はあまりコロナの影響を受けなかったから。 <理系女子>
- 就活の軸は、一時の景気に左右されるものとは思わないから。 <文系男子>
- 様々な企業を見たが、結局、高校生の時からなりたかった職業を目指しているから。 <文系女子>
- 自分が行きたい企業を明確に持っているのだから、そこがコロナでダメージがあったとしても、採用するなら受けたい。 <文系男子>
- コロナでなくても、VUCA な社会は変わらないから。 <理系男子>

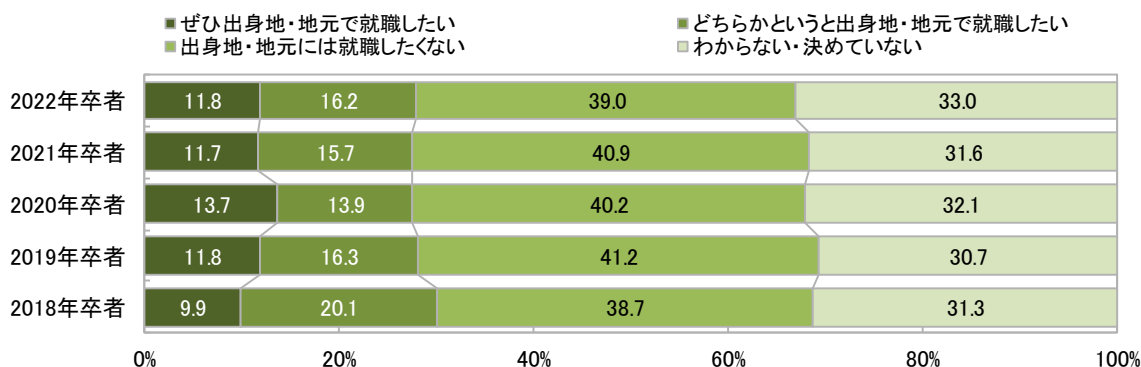
9. Uターン就職の希望状況

出身地・地元を離れて進学している学生（＝地元外進学者、モニター全体の 43.8%）に、Uターン就職を希望しているか否かを尋ねた。「ぜひ出身地・地元で就職したい」（11.8%）と「どちらかという」と出身地・地元で就職したい」（16.2%）を合わせたUターン就職希望者は28.0%。ここ数年3割程度が続き、コロナ下においても大きな変化は見られない。

今年の結果を出身地別に見ると、Uターン希望者が多いのは「北海道出身」で過半数（計52.7%）。他に「関東出身」「関西出身」がそれぞれ3割を超えている（計34.3%、30.3%）。

Uターン就職をしたい理由で最も多いのは、「出身地・地元が好き／暮らしやすい」で約6割（57.1%）。次いで「出身地・地元に貢献したい」が5割強で続く（51.3%）。「出身地・地元に貢献したい」は前年より8.5ポイント増えた。地元への愛着だけではなく、地元に対する貢献意識からUターンを考える学生が多いようだ。

＜Uターン就職意向(地元外進学者)＞



＜地元外進学者のUターン就職希望状況(出身地別)＞

	全体	北海道出身	東北出身	関東出身	中部出身	近畿出身	中国・四国出身	九州・沖縄出身
ぜひ出身地・地元で就職したい	11.8	31.6	2.3	15.3	10.2	13.2	10.0	8.7
どちらかという出身地・地元で就職したい	16.2	21.1	25.0	19.0	13.9	17.1	10.0	14.5
出身地・地元には就職したくない	39.0	31.6	47.7	30.7	40.1	28.9	48.3	50.7
わからない・決めていない	33.0	15.8	25.0	35.0	35.8	40.8	31.7	26.1

＜Uターン就職をしたい理由(地元外進学者)＞

